

第29回広島平和体験学習

今の生活に感謝 平和の尊さを考えさせられた

8月4日～7日の日程で広島市へ平和体験学習に参加された4名の中学生から報告をいただきました。

子爆弾の威力が相当すごかったんだろうなと思いました。

最後に定信さんはこう言っていました。「今の生活は恵まれている」と。私もそう思います。広島に行く前までは、毎日ご飯が食べられること、そして今平和なことが当たり前だと思っていなかったが、当たり前ではないことに気づきました。ご飯を作ってくれる親、平和な日本に感謝の気持ちを忘れないようにしたいです。そしてこの体験学習を通して、「二度と戦争をしたくない」という気持ちが前より大きくなりました。

高桑 里奈

中、病室で「元氣になりたい」という願いを込めて千羽鶴を折るも願いは叶わず、12歳で生涯を閉じたそうです。元氣になったら友達と遊んだりできたのにと悲しくなりました。

最後に原爆について学んで、最初は話を聞くのが怖い、資料館に行くのが怖いと思いましたが、体験学習を通じて、占冠で平和に暮らしていることがどれだけ幸せなことがわかりました。そして、戦争のない現在の日本を維持していきたいと思いました。

夏堀 菜々未

おっしゃっていた吉田さんの話を聞いて、爆風の怖さ、原爆の恐ろしさがわかりました。最後に吉田さんから「戦争は絶対に反対してくれ。特に若い人たちは声を大にして反対してくれ」と力強く言っていました。

毎年この報告会・映画会に参加していた自分は、広島平和体験学習に参加して、想像以上の強い衝撃を受けました。69年前前たくさんの命が犠牲になった事実を受け止め、今後、このようなことが二度と起きないように、今回の学習を生かして自分の考えを少しでも社会に役立てるように、今この瞬間を生きたいという喜びを感じながら生きていきたいです。

平岡 秀哉

戻ると家中ガラスの破片が散らばっていました。

学校は焼け壊れた姿となり、校長先生の娘さんを川の中で見つけた定信さんは「おーい。こっちへあがっておいで」と声をかけると「気持ちいいよ」と言っていて、娘さんはそのまま川に流され行方不明となり亡くなったそうです。なぜ川に入ったのか。それは全身大やけどになり、とにかく冷やしたい一心で川に入ったのではないかと定信さんはおっしゃっていました。

また、資料館も訪れ、そこには背筋が凍るものがたくさんあり言葉が失いました。体験を通じて「二度と戦争はしてはいけない」と強く感じました。

堀井 麻美

広島で戦争について見たり聞いたりしたことは衝撃的なことばかりでした。1番衝撃的だったことは、語りべさんのお話です。定信多紀子さんは、当時13歳で密集地の建物を壊すためにくわを持って電車に乗ろうとした時に警報が鳴り、自宅に引き返した後、親戚の家で、いきなりピカッと光り、見るところ全部がオレンジ色に染まったそうです。ドンという音で、ガラスが割れ、タンスが壊れ、家中ガラスの破片でいっぱい。家から中心部を見たら煙がもくもくと出てきていたそうです。「今まで生きてきてあんな火事を見たことがない」と話された時、原

広島でたくさんさんのことを学び、悲しい気持ちになりました。私が悲しい気持ちになったことが2つあります。1つ目は、広島平和記念資料館で原爆で亡くなった方々の遺品を見る中で、三輪車が目に入りました。それは、3歳11ヶ月の男の子が、自宅で遊んでいたもので、その時に原爆が落とされ亡くなったそうです。なぜ、こんな幼い男の子が亡くならなければいけないのかと、とても悲しくなりました。2つ目は、2歳で被爆した佐々木禎子さんのお話です。被爆から10年後に白血病になり入院

広島に行つて、吉田寅夫さんという方から、当時の話を聞かせていただきました。吉田さんは、19歳で爆風に襲われ、自分も周りの人も血だらけで、体中にガラスの破片が突き刺さり、何をしても痛いという状況でした。しかし、「逃げなきゃ」という感情が、「痛い」という感情よりも勝り、その時は痛みをあまり感じなかったそうです。「原爆は、人間が痛みを忘れるほどの恐怖を与えるものだったのか」と思いました。

被爆から4年間仕事ができず、現在も体内にガラスが残っているそうで、「放射能や放射線よりも爆風の方が恐ろしい」とこの体験を通じて、今回のことを次の世代に引き継ぐこと、勉強や部活ができることなど今の恵まれている生活に感謝することを学ぶことができました。語りべさんのお名前は定信多紀子さん。13歳の時に被爆された定信さんは、働いたため電車に乗るところに警戒警報が鳴り、身の危険を感じ自宅に引き返したそうです。その後、原爆投下の中心地から3.5kmの距離にある親戚の家で目の前がオレンジ色の光におおわれ、その後自宅に



『地域おこし協力隊』が行く②

地域活動の取り組みを通じて

地域おこし協力隊

門田 雄一

占冠村役場企画商工課に席を置いています協力隊の門田（もんだ）です。私は現在、双珠別住民センターに居住させていただいています。元々は占冠駅前にある地域振興住宅の楓に居住していましたが、集落を訪問していくうちに、できる限り集落の住民の皆さんの近くにおいて即戦力として対応できるようにしたかったことや、農業に興味を持ち、双珠別で休日は農業も学んでいきたいという思いから双珠別地区に住むことになりました。活動としては、集落支援活動やお手伝いを含めた地域行事への参加、地域カフェ『ぼっこてぶくろ』の運営のお手伝いを行っています。これまでの活動を振り返り、報告したいと思います。

3月に、教育委員会で実施したメープルシロップ作りのお手伝いをさせていただきました。集落の皆さんに教えてもらいながら、あらかじめ準備

しておいた楓の樹液を原料に札幌から招いた講師の指導のもとメープルシロップを試験的に作りました。このことをヒントに、将来的には、「春のメープルシロップ作りお土産付お泊まり会」のような地域資源を使った体験メニューができるとう面白く思いました。



楓の木から樹液を採取する様子

5月には占冠地区の皆さんが主催する村内での「ちょこつとバス遠足」に参加させていただきました。赤岩青巖峽や二二ウキャンプ場、トマムリゾートまで、村内を巡り、占冠地域

交流館で昼食をとり、交流しました。最近では村内の観光スポットに行ったことがない方が意外と多く、観光スポットを巡る度に、新しい発見や懐かしい景観を楽しまれているようでした。参加された中には、日頃から自宅訪問している高齢者の方も参加しており、より気持ちを共有できたことが嬉しかったです。



占冠「ちょこつとバス遠足」バスに揺られて～

7月には、集落の皆さんの自宅に訪問して集まりやすい日時を調整し、双珠別地区の「地域の今を語る会」を双珠別住民センターで行いました。地域の課題である防火対策（山火事）をテーマとした勉強会及び住民同士（私も含め）の話し合いを実施しました。消防士の講座、アドバイス、非常食の試食など、大変勉強になりました。

今後は、救命講習にも興味を持たれている参加者が多かったので、第2回の「地域の今を語る会」も検討していきたいと思います。



双珠別「地域の今を語る会」

トマム、中央地区の皆さんとは個人的な趣味の陶芸サークルや、中央地区にある地域カフェ「ぼっこてぶくろ」、消防団、農家さんを通じて交流させていただいています。

最後に、地域活動を行う上で、これからも皆様と接することが多くなってまいります。初めて交流させていただく場合でもお気づきの点などがございましたら、遠慮なくお話ししていただければと思います。今後とも、ご指導のほどよろしくお願ひします。